

## 「落語と私」 その参拾伍

### 三代目 橘ノ百圓

皆様 明けまして、お目出とうございます。今年は皆様にとりまして、良い年であります様に。昨年  
11月中頃から、コロナ感染者の数が急激に増えて、日本中に緊張が走りましたが、この月報が、お手  
元に届く頃には収束が見えている事を祈ります。

新年と言う事で、お正月の噺をと思ったのですが「かつぎ屋」「七草」など地味な噺が多いです。そこで！  
今回の主題は、落語に出て来る“吝”を取り上げます。お正月早々ですが、これもチョイトした洒落と思っ  
てお赦してください。

昔から吝の呼び方は、吝齋、あかにし屋、がりがり亡者、しわい屋、しみったれ、吝ン坊、色々在りま  
すが、中に“六日知らず”テエのがございます。何故、吝の事を“六日知らず”と言うかと申しますと、日  
を数えるのに(片手で)一日、二日、三日、四日、五日と指を折りますが、六日テエとこの指を上げなく  
ちゃならない。一旦握った物は絶対に放さないと言う、テッ、吝の事を“六日知らず”テエますが、これ  
は噺のマクラですネ。

私は、吝の方は、それ成りの信念を持っていると思います。別に吝を勧める訳ではないですが、浪費家  
よりは余程良いと思いますが、只、これも程度問題で、落語に出てくる様になっては、他人様に大きな迷  
惑を掛けますので…。

ここで私の好きな“吝の小咄”を三ツ紹介致します。皆様方も、一度や二度、聴いた事が在るとしま  
すが。

其ノ壺 「定吉や、ここに釘が出てるから、又、着物を引掛けてもいけないから、隣イ行って、金槌を  
借りて来な」「行って来ましたが、貸してくれません」「どうしてだ!?!」「へエ、お隣の旦那が、鉄の釘を打つ  
のか、竹の釘を打つのかと訊きますので、鉄の釘を  
打ちますと言いましたら、鉄と鉄とがブッカって金  
槌が減るから貸せない。そう言っていました」「何イ金  
槌が減るウ！どれだけ減ってんだ。借りるな借りる  
な、そんな所ッから、じゃあ、家の出して使え」良  
いでしょ。

其ノ式 あるお店、前が鰻屋さん。お昼時になると鰻を焼き始める。「サアサア皆んな前で鰻を焼き  
始めたヨ。ご飯をヨソッてここに並びナ。アア良い  
匂いだネ。サアご飯を食べナ、ご飯を」テんで、鰻  
を焼く匂いだけで、ご飯を食べようと言う「今日の



出典：http://meroom.com/nodaya1505151.jpg

鰻はチョイト細いネ！」何ンてんで、匂いで鰻の太さが解るほど、月末に成ると鰻屋さんが「エエ今日は、鰻屋でございます」「ハイ、イヤ家じゃあ鰻なんて誂えて無いヨ」「ヘエ、これでございます」「何イ、一ツ鰻の嗅ぎ代、何んだこりァ!?」「ヘイ、手前共の主の申しますには、毎度、毎度ああして昼時に成ると鰻の焼く匂いを嗅がれては、タレを二度で済む処を三度も四度も付ける様に成り、又、鰻の性が抜ける、前へ行って勘定を貰って来る様に言われました」「アッそう、デ？これが勘定書かい。一ツ金二円三十銭也、但し鰻の嗅ぎ代、随分高いネ。風の具合で来る事も在るんだから、幾らか負カンないかい!?駄目、アッそう解りました。オイ、二円三十銭、細かい方が良いナ。巾着に入れて…。ハイお勘定。オイ、手を出すんじゃない。鰻の嗅ぎ代だ。音だけ聞いてお帰り」(ト！鰻屋の小僧さんの顔の前で巾着を振る)洒落てるでしょ。

其ノ参 「オイ、お前知ってるかい!?横町の“しわい屋”あんな吝な奴はないネ。誰かが物を捨てるテェと、何処で聞いているのかネ『ご不要なら私が頂きましょう』テンで、何ンでも持ってくるんだヨ。だから今日は一ツ驚かしてやろうと思ってネ。俺が『こんな物ン要らねエから打遣ちまうヨ。捨てちまうヨ』テェから、お前エが『勿体ねエから取っときァ良いヤナ』そう言やあ奴は必ず顔出すから、ホラ、噂をすりァ影だヨ。野郎来やがったヨ、じゃあ行くヨ『こんな物ン要らねエから捨てちまうヨ。打遣ちまうヨ』『勿体ねエから取っときァ良いヤナ』「エエ、ご免くださいまし、今、表を通りましたら、何か物を捨てるという事で、ご不要でございましたら、私が頂戴を致しますが」「エッ、持ってくるかい!?遣っても良いけど持ちづらいヨ」「持ちづらい、エエ、何ンでございますかナ?」「屁だヨ、屁」「屁と申しますと!?」「お前、屁エ知らねエのかい、オナラだヨ」「アノ尻から出る」「当り前エだヨ、どうする止しとくかい!?」「ヘエ、折角ですから頂戴を致します」「エッ！持ってくるの」そうまで言われちゃ仕方がない。「じゃあ後に廻ンなヨ」尾籠なお話ですが、奴さん尻を捲って“ブウ”吝兵衛さん、これを大事そうに両手で包む様にして駆け出したから、何処へ行くのだろうと、後から追いて行くと、自分の家の裏に小さな菜畑が有りまして、吝兵衛さん、その真ン中に立ちまして「ヘッ 只の風よりましだろう」(この時掌は下に向けます)

見事な考え落です。これは頓知に富んだ吝兵衛さんの勝ちです。吝もここまで来ると達人ですネ。

ここで“吝の噺”を並べてみますと「一文惜しみ」「片棒」「しわい問答」「大工調べ」(大家さんが)「黄金餅」(西念さんが)「ねずみ穴」(お兄さんが)「夢金」(これは欲張り)「味噌蔵」「二丁蠟燭」「位牌屋」

※吝と欲張りの違い 吝 = 自分の物は出したがらない。 欲張り = 他人の物まで欲しがる。

前述の「味噌蔵」「二丁蠟燭」「位牌屋」は元は一ツの噺でしたが、通しで演じますと非常に長くなる為に、三話に分けたと聞きました。では、その長い噺的一幕目「味噌蔵」を取り上げたいと思います。

ここに大きな味噌屋さんの主、屋号を“しわい屋”名前を吝兵衛さん。奉公人を多勢使ってますが、オ



出典：<https://search.yahoo.co.jp/>

カミさんを持ちません。訳を訊くと「三度、三度オマンマを食べるし、子供でも出来れば一人前に育てる為には、大変なお金が掛りますから」との答え、親類の者一同呆れて、今後一切親戚付合はしないと脅されて、嫌々オカミさんを持つ事となったのですが、そこは徹底した吝者ですから“君子危うきに近寄らず”で、夫婦が上と下で別々に寝るほど。冬の極寒い夜、風呂敷の様に薄くなった布団くもに包くまっているので、中なか眠付けない。と！2階で物音が「アッ！泥棒、イヤ泥棒じゃないヨ、上でカミさんが寝てるんだヨ、そう言やあ、婚礼の晩に綿の沢山入った布団を幾枚も持って嫁いで来たんだヨ。1枚くらい貸してくれても良さそうなもんだ、チョイト掛合に行つて来るか」テンで2階へ行きました、どう言う風に話しが纏まりましたか、その晩はオカミさんの布団で温ったかくお休みになりまして、次の日の晩もオカミさんの布団で温ったかくお休みになりまして、世の中が温ったかくなりまして、オカミさんの布団で温ったかくお休みになっておりますうちに、オカミさんのお腹に、温ったまりの塊の様な物が出来上ります「エッ！赤ちゃんが出来ました!?私もネ、いつまでもこう言う快樂あけに耽ひっていると、いつか災難に出合うんじゃないかと思っていたんだヨ、お前じゃ話にならないから、番頭さん呼びなさい」「番頭さん、実に情けない事が持チャがりました」「エエ、情けないとお仰いますと!?」「家の家内うちのお腹に赤ちゃんが出来ました」「それはどうも、お目出とうございます」「嫌な男だネお前は、私がこんなにガッカリしているのに、何を一人で喜んでいるんだ、アアそうか、そうやって、喜ぶ処をみるとお前もいくらか手伝ったか!?」「馬鹿な事言つてはいけません」などと妙な会話をしておりましたが、番頭さんの提案で、出産費用節約の為に一旦オカミさんを里に帰して、無事出産のちの後に又戻つてもらふ、テな事に話が落ち着きまして、十月十日、月満ちまして無事生まれましたのが、玉の様な男の児。里の出産祝に招かれた旦那は、小僧の定吉に空の重箱を持たせ。「お前、何遣つてるの?何イ履物を探してます。良いのお前は、親から貰った二本の足があるんだから、素足はだしで良いの、素足で行つて帰りに何ンか履いて来りゃそれで良いんだから。では番頭さん今夜は向うに泊りになると思うので、戸締りと火の用心を頼みましたヨ、ご近所で火事の際は、大事なのは三番蔵、味噌蔵だから、直ぐに商売物の味噌で蔵の目塗りをしておくれ、何?番頭さん、『商売物では勿体のうございます。』そんな事は在りませんヨ、火事が済んだら、それを剥がして焼味噌として皆さんのオカズにして差し上げますから」と言い残して旦那は出掛けてしまう。



出典：<https://www.pinterest.jp/>

サァ！これからが面白くなるのですが、原稿数の都合も在りますので、今月号はこれまで！！次号をお楽しみに。

新型コロナの政府の対応も今一ツですが、「自分の身は、自分で護る」三密を避け、マスクの着用と不要不急の外出は控える。これで現状を乗り切りましょう。